

親と子の生活意識に関する調査について

～貧困が親や子どもにもたらす影響等の問題を
親子の意識面から分析～

調査概要

調査対象及び回収結果

対象…全国の中学３年生及びその保護者

標本数／有効回収数（率）

子調査：4,000人／3,192票（79.8％）

親調査（保護者調査）：4,000人／3,197票（79.9％）

調査方法

調査員による訪問留置・訪問回収法

本調査における貧困（相対的貧困層）の定義

厚生労働省が公表している相対的貧困率の算出方法（等価可処分所得の中央値の半分（貧困線）に満たない所帯の層）を参考に、保護者調査の世帯人数及び世帯収入の回答から、世帯人員別に一定の世帯収入を下回る層を相対的貧困層（n=437）、それを上回る層を相対的貧困でない層（n=2,649）とした。相対的貧困層に該当する割合は14.2％。

※平成22年度国民生活基礎調査によると平成21年の子どもがいる現役世帯の相対的貧困率は14.6％

調査結果のポイント

- 貧困が健康面や自己肯定感に与える影響は、親には顕著に表れているが、子にはそれほど表れていない。しかしながら、学歴の見込みには親子共に影響を与えている。
- 相対的貧困層では、教育費に関する金銭的給付や保護者がより多くの収入が得られる職に就くための支援等、貧困解消のためのニーズが高い。
- 子の自己肯定感等を高めることが前向きな意識を形成することに繋がる傾向があり、子のことをよく理解・ほめてくれる親の存在、学校で皆の前でほめられたりする経験の有無により差がみられる。

貧困が親と子の意識に与える影響

親への影響は顕著である一方、子への影響は少ない

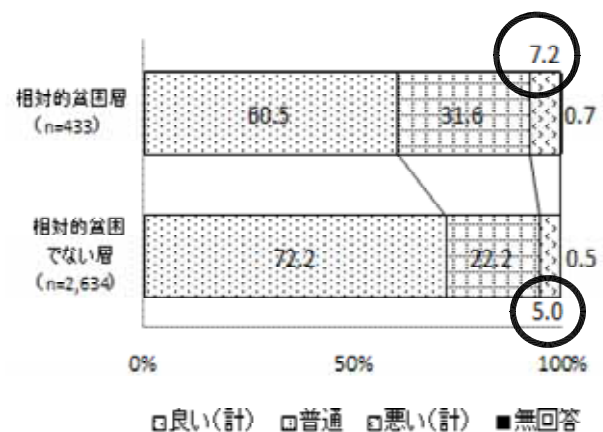
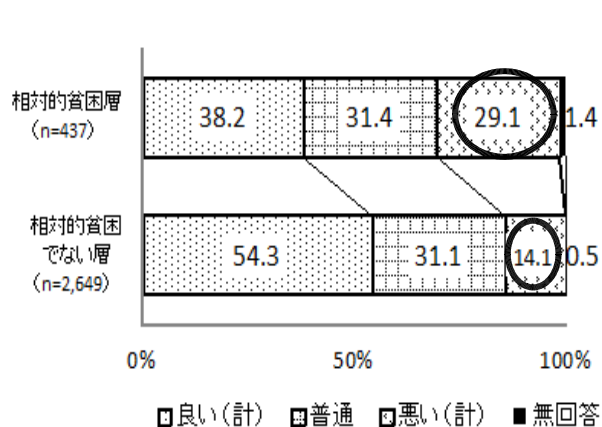
- 相対的貧困層の親は普段の健康状態及び心の状態（悲しいと感じたこと等）が相対的貧困層でない層より悪く、自己肯定感（自分自身にだいたい満足している等）も低い。一方、相対的貧困層の子と相対的貧困層でない層の子とでは、普段の健康状態には差がみられるものの、心の状態及び自己肯定感には大きな差が見られなかった。

【健康に関する状態・意識の差】

－ 普段の健康状態 －

（親調査）

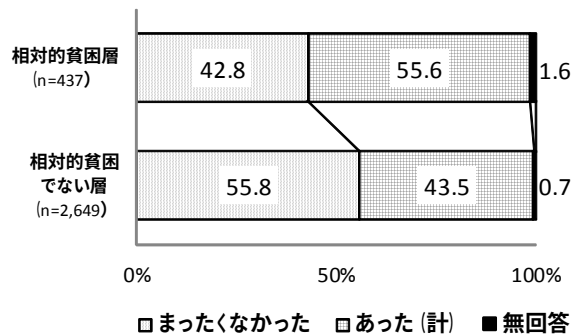
（子調査）



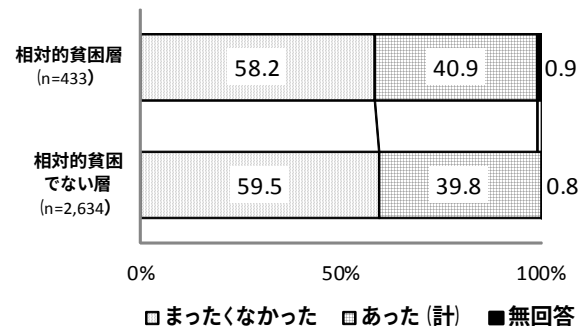
－（この一週間の）心の状態－

< 悲しいと感じたこと >

（親調査）

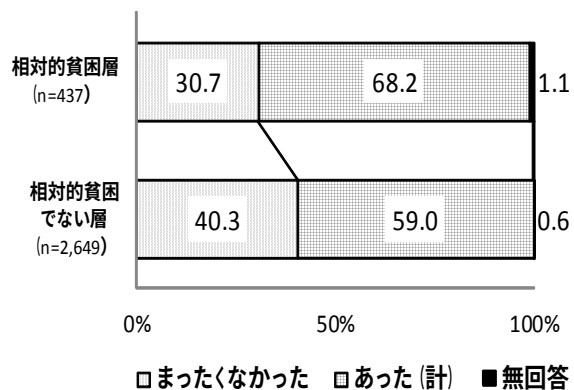


（子調査）

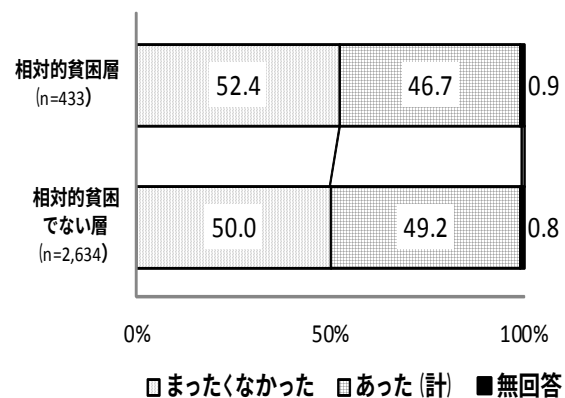


< 憂うつだと感じたこと >

（親調査）

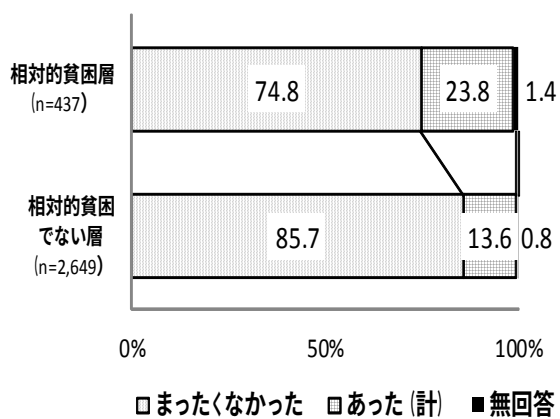


（子調査）

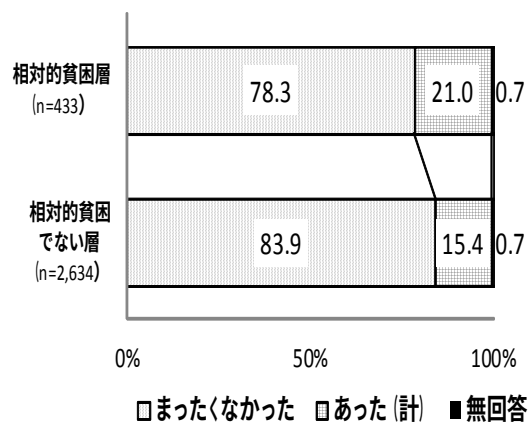


< 一人ぼっちで寂しいと感じたこと >

（親調査）



（子調査）

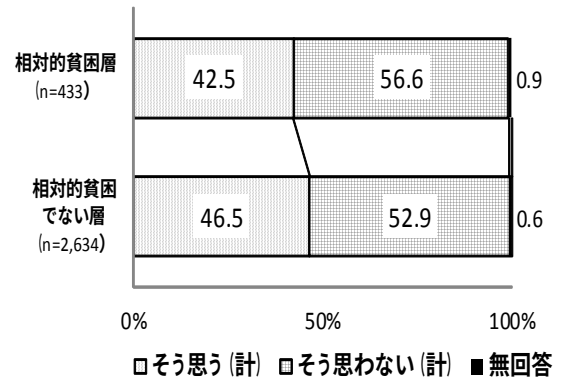
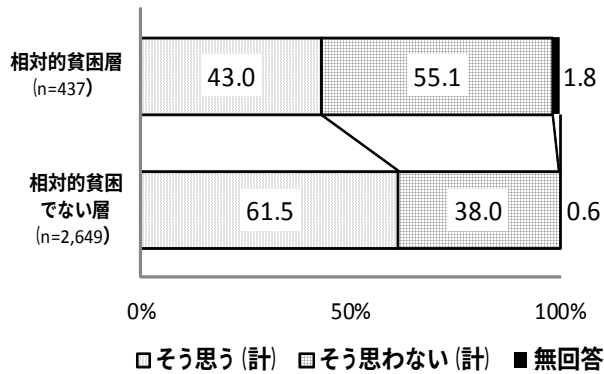


－自己肯定感－

<自分自身に満足している>

(親調査)

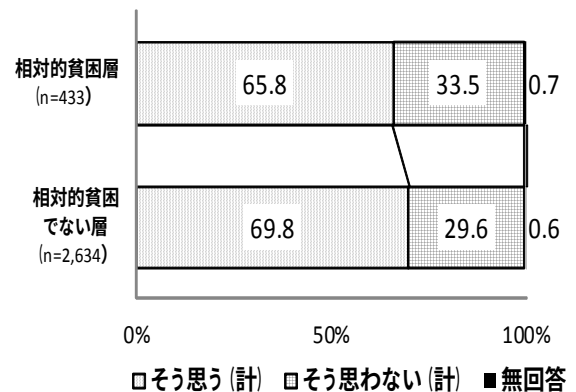
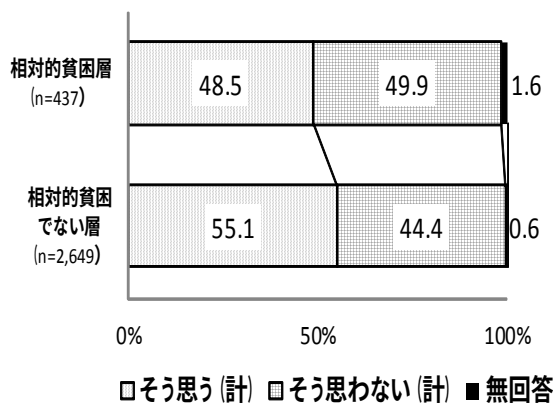
(子調査)



<長所がある>

(親調査)

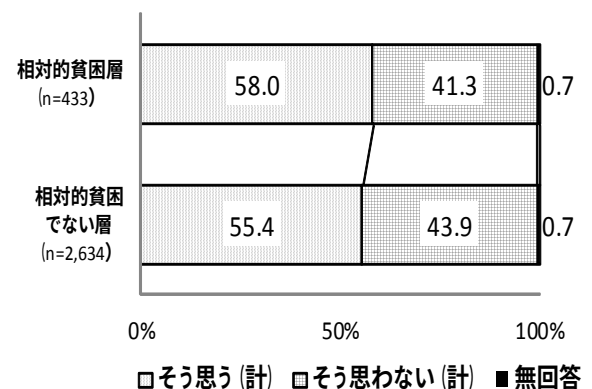
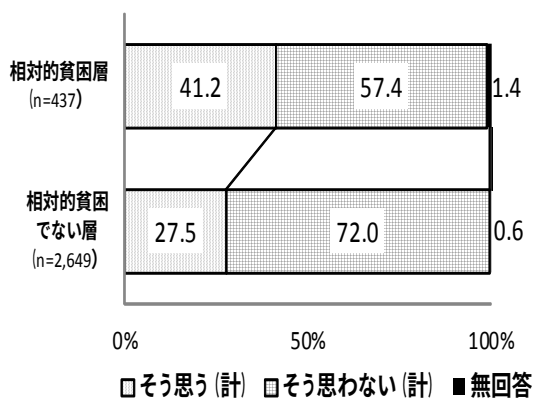
(子調査)



<役に立たないと強く感じることもある>

(親調査)

(子調査)



一方、学歴の見込みには親子共に影響

- 「大学・大学院まで」とする回答は、相対的貧困層では相対的貧困層でない層より、親子共に理想的学歴、現実的見込学歴のいずれも低い。

【学歴の見込み】

(%)

学歴の見込み 「大学・大学院まで」を 選択	親調査			子調査		
	n (人)	的子の 学理 歴想	的子の 学現 歴実	n (人)	歴想自 的身 な の 学理	歴実自 的身 な の 学現
相対的貧困層	437	35.5	23.3	433	35.1	27.7
相対的貧困でない層	2,649	65.0	56.0	2,634	64.6	58.8

現実的見込み学歴となる理由－上位理由は親子共に類似、現実的見込み学歴が低い場合には親子共に「学力」、「経済的」な理由の割合が増加

- 親子共に半数以上が「子／自身の希望」を回答するほか、「子／自身の学力」、「一般的／普通」が上位を占めている。理想的学歴より現実的見込学歴が低い場合の現実的見込み学歴となる理由については、親子共に「子／自身の学力」、「経済的余裕がない」とする割合が2～4倍程度増加する。

【子／自身の現実的見込み学歴となる理由（理想的学歴より現実的見込み学歴が低い場合の現実的見込み学歴となる理由）】複数回答 (%)

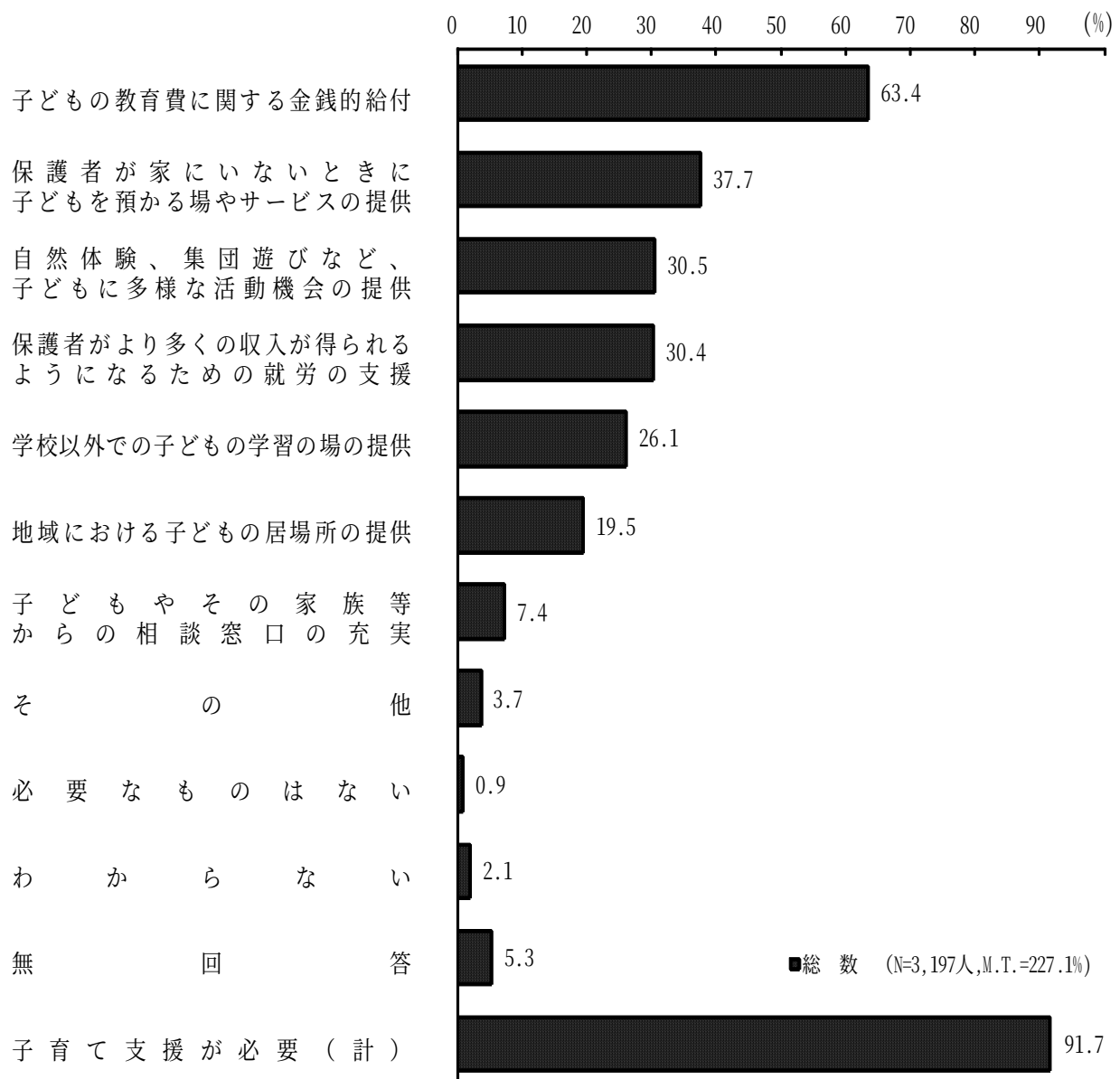
親調査								子調査							
	n (人)	1位	2位	3位	4位	5位	6位	n (人)	1位	2位	3位	4位	5位	6位	
子／自身の現実的見込み学歴となる理由(上位6位)	3,197	かしそ らてうど い希も る望が	考字子 え力ど てかも らの	う進一 か路般 らとの 思な	か裕漁家 らがの庭 ななに い余経	その他	は特 なに い理 由	3,192	だ分そ かのれ ら希が 望自	思での普 う行学通 かく校は らとまそ	え力自 てか分 らの 考字	い希親 る望が かしそ らてう	は特 なに い理 由	か裕漁家 らがの庭 ななに い余経	
		53.6	33.1	23.6	12.2	9.0	3.8		64.4	23.7	20.1	11.2	6.1	4.3	
理想的学歴より現実的見込み学歴が低い場合の現実的見込み学歴となる理由	436	考字子 え力ど てかも らの	かしそ らてうど い希も る望が	か裕漁家 らがの庭 ななに い余経	う進一 か路般 らとの 思な	その他	は特 なに い理 由	321	え力自 てか分 らの 考字	思は字普 う行校通 かくまそ らとでの	か裕漁家 らがの庭 ななに い余経	で分そ かのれ ら希が 望自	は特 なに い理 由	い希親 る望が かしそ らてう	
		56.0	33.9	30.3	7.6	6.0	3.0		58.6	17.4	17.4	12.5	7.8	4.4	

必要な支援策

金銭的給付や保育サービスなど、9割以上が何らかの子育て支援を求めている

- 子どもの教育費に対する金銭的給付の必要性がもっとも高く、以下、保育サービスの提供、多様な活動機会の提供、保護者がより多くの収入が得られるようになるための就労支援が続ぎ、何らかの子育て支援が必要と回答した割合は9割を超える。

【子育てに必要な支援】（親調査）3つまでの複数回答



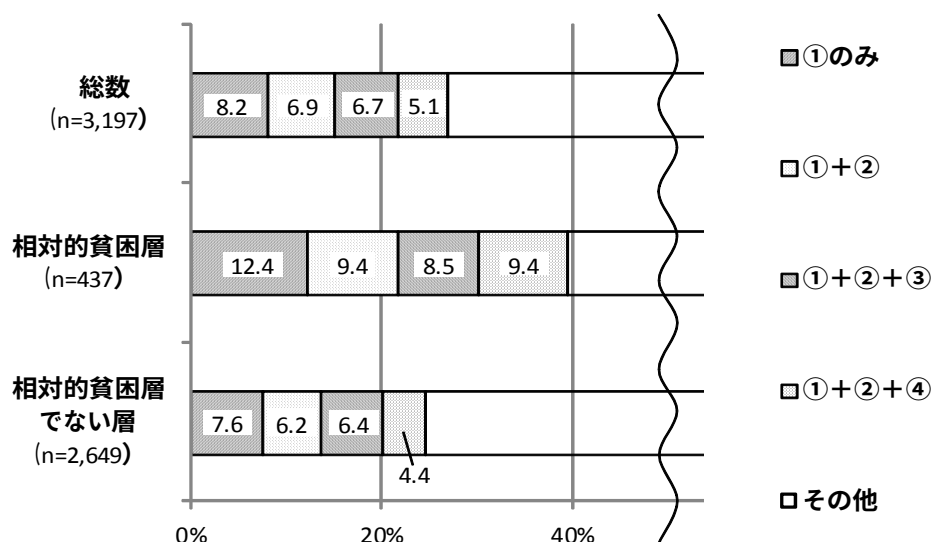
相対的貧困層については金銭的給付や就労支援を中心とした支援が求められている

- 必要な支援策の組み合わせを見ると、上位4つ※までの組み合わせが占める割合は相対的貧困層でない層は約25%でありニーズが多様であるが、相対的貧困層では約40%を占め、教育費に対する金銭的給付を中心に親の収入増のための就労支援や学習に対する支援のニーズが高い。

※上位4つの組み合わせ

- 「子どもの教育費に対する金銭的給付」
- 「子どもの教育費に対する金銭的給付」＋②「保護者がより多くの収入が得られるようになるための就労の支援」
- 「子どもの教育費に対する金銭的給付」＋②「保護者がより多くの収入が得られるようになるための就労の支援」＋③「保護者が家にいないときに子どもを預かる場やサービスの提供」
- 「子どもの教育費に対する金銭的給付」＋②「保護者がより多くの収入が得られるようになるための就労の支援」＋④「学校以外での子どもの学習の場の提供」

【子育てに必要な支援上位4つの組み合わせ】（親調査）3つまでの複数回答



①子どもの教育費に関する金銭的給付 ②保護者がより多くの収入が得られるようになるための就労の支援 ③保護者が家にいないときに子どもを預かる場やサービスの提供 ④学校以外での子どもの学習の場の提供
他の選択肢は省略

自己肯定感を高める経験、夢や希望の実現に向けた意識

自己肯定感を高める経験が前向きな意識を形成

- 自分のことをほめてくれる親のいる子、親子のコミュニケーションが盛んな家庭に育った子、学校での皆の前ではめられた子は、多くが「自分の将来に希望がある」、「満足している」と回答しており、親とのコミュニケーションの有無、親や学校ではめられたり、認められる経験の有無により、将来の明るい希望に対する意識や子の自己肯定の意識に差がみられる。

【将来への明るい希望・自分自身への満足】（子調査）

（％）

	n (人)	自分の将来について							自分自身に満足している						
		希望がある	えとばち希望かと言	いとばち希望かと言	希望がない	無回答	希望がある	希望がない	そう思う	えとばちそうかと思う言	なえとばちそうか思わ言	そう思わない	無回答	そう思う	そう思わない
総数	3,192	41.8	40.5	13.0	4.1	0.6	82.3	17.1	12.4	33.8	36.2	16.9	0.7	46.2	53.1
私にいろいろなことを話してくれる(父)															
そう思う(計)	1,759	46.4	40.0	10.6	2.7	0.3	86.4	13.2	13.9	36.3	35.3	13.9	0.7	50.1	49.2
そう思わない(計)	1,132	34.5	42.0	17.1	6.2	0.1	76.6	23.3	9.7	29.5	39.0	21.1	0.6	39.2	60.2
私にいろいろなことを話してくれる(母)															
そう思う(計)	2,269	45.8	39.8	11.0	3.1	0.3	85.6	14.1	13.4	36.1	34.9	15.1	0.5	49.5	50.0
そう思わない(計)	778	30.6	43.4	18.8	7.1	0.1	74.0	25.8	8.9	27.1	40.4	22.9	0.8	36.0	63.2
小さいころ、親からよくほめられた															
経験あり	1,866	47.7	39.1	10.2	2.3	0.6	86.8	12.5	15.5	36.0	33.8	14.1	0.6	51.6	47.9
経験なし	1,305	33.7	42.4	16.9	6.7	0.4	76.1	23.5	7.9	30.4	39.9	21.1	0.7	38.3	61.0
学校で皆の前ではめられたり、表彰されたりした															
経験あり	2,222	46.7	39.5	10.3	3.1	0.5	86.2	13.4	12.8	34.9	35.7	16.0	0.5	47.7	51.8
経験なし	949	30.9	42.7	19.2	6.5	0.7	73.6	25.7	11.4	31.0	37.6	19.2	0.8	42.4	56.8

親の意識が子の前向きな意識を形成

- 「努力すれば夢や希望が実現する」と思う親の子は、家計の状況に関わらず親と同様に前向きな回答をしていることが多い。

【努力すれば夢や希望が実現する】(子調査)

(%)

	n (人)	そう 思う	そとど う言ち 思えら うほか	なそとど いう言ち 思えら わほか	なそ いう思 わ	無 回 答	(計) そう 思う	(計) なそ いう 思わ
子の回答全体								
努力すれば夢や希望は実現する	3,182	45.6	34.6	12.5	6.5	0.9	80.1	19.0
「努力すれば夢や希望が実現する」に 「そう思う」と答えている親の子	933	56.1	28.9	9.0	5.1	0.9	85.0	14.1
相対的貧困層	130	54.6	33.1	6.9	4.6	0.8	87.7	11.5
相対的貧困層でない層	764	56.3	28.4	9.7	4.8	0.8	84.7	14.5